

中に発掘された神田上水遺跡の一部が移築復元されています。上水の石樋などは、本物を見ないと実感されない事を痛感しました。

昨年の春頃、新宿御苑の新宿門から、大木戸門の外側にある散策路に水路が作られました。説明板によると玉川上水の再現とあります。そこで、平成十五年の水道ニュース一号を見ますと、本郷に東京都水道歴史博物館というのがありますので、玉川上水の事を知るために、此処を尋ねてみることにしました。

場所はJRお茶の水駅からだと、医科歯科大と順天堂大の間の道を進みます。本郷二一七一ですから十分弱で歩いて行けます。外堀道を行くと順天堂医院の裏側に当たる所になります。一階が受付と近現代水道の説明階、二階が江戸上水の説明階とに分かれています。発掘された木樋、上水井戸枠などが沢山展示されています。そして館の裏手は本郷給水所が公苑になっていて、神田川分水路の工事

この公苑は散策路としても十分な広さを持つています。以前スペイン、マドリードの郊外セゴビアで、巨大なローマ水道、それを昭和の代まで使われていたと

いう巨大遺跡を見学した時の事を思い出しました。そして意外であったのは、欧洲などの上水と異なつて江戸時代の上水は、唯一下水設備を持つていたとの事です。そして淀橋浄水所は日清戦争後の一八九八年、通水を始めたのだそうです。

話は変わりますが、私は東京医大です。それで、この淀橋浄水所の貯水池を大学病院の窓から足下に眺めていたのでした。話は更に飛びますが、江戸期の小石川上水（後の神田上水）には、上京して来た芭蕉が此處で働いていて、後に俳句が有名になって、深川に移つてたとの事です。

さて、医学会総会が正常に開かれる予定で、本誌も準備を進めていました。一転して再編集、発行予定日が大幅に遅れました。ご海容ください。ソシアルイベントの幕引きはまだ済んでいません。6月の総会でなんらかの見通しがあるものと思いますが、それを乗り越えての各部のより活発な活動を期待します。